

皆様おはようございます。

初夏を思わせるような暑さを感じるころになりました。体は寒さから暑さに慣れるように切替をしていることと思います。どうぞ引き続きご自愛ください。

ついに受難週に入りました。エルサレムに入城され、民は大歓声でイエス様をお迎えしましたが、それもつかの間、バラバを釈放しろ、イエスを十字架につけよ、殺せ、との大合唱になります。

金曜日。それは日没から安息日が始まるという日ですが、今日の個所では同時に過越の祭りの準備の日でもありました。

日没からの安息日にかからないように、この日はいつもより早く神殿では過越の祭りを迎えるタベの礼拝が午後1時半ころから行われていました。

そして過越の小羊を神殿で屠ったのが午後3時頃。それはちょうど十字架の上でイエス様が息を引き取られたのと同じ時刻でした。

他の福音書には、イエス様が息を引き取られた時のことをこのように記しています。

ルカ 23:44 時はもう昼の十二時ごろであったが、太陽は光を失い、全地は暗くなって、三時に及んだ。

23:45 そして聖所の幕がまん中から裂けた。

23:46 そのとき、イエスは声高く叫んで言われた、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」。こう言ってついに息を引きとられた。

マタイ 27:50 イエスはもう一度大声で叫んで、ついに息をひきとられた。

27:51 すると見よ、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。また地震があり、岩が裂け、

27:52 また墓が開け、眠っている多くの聖徒たちの死体が生き返った。

27:53 そしてイエスの復活ののち、墓から出てきて、聖なる都にはいり、多くの人に現れた。

27:54 百卒長、および彼と一緒にイエスの番をしていた人々は、地震や、いろいろのできごとを見て非常に恐れ、「まことに、この人は神の子であった」と言った。

過越の礼拝をしていた祭司長たちはどんなにびっくりしたことでしょうか。その羊を屠った時、イエス様が息を引き取られ、多くの不思議な出来事が起こったという事に人々は畏れを感じました。

今日の聖書の個所には、「聖書が成就するため」という言葉が何回も見いだされます。

19:23 さて、兵卒たちはイエスを十字架につけてから、その上着をとって四つに分け、おのおの、その一つを取った。また下着を手にとってみたが、それには縫い目がなく、上の方から全部一つに織ったものであった。

19:24 そこで彼らは互に言った、「それを裂かないで、だれのものになるか、くじを引こう」。これは、「彼らは互にわたしの上着を分け合い、わたしの衣をくじ引にした」という聖書が成就するために、兵卒たちはそのようにしたのである。

「彼らは互にわたしの上着を分け合い、わたしの衣をくじ引にした」

十字架刑に処するローマの兵には、十字架につけられる人の持ち物を得る権利があったようです。

兵士たちがイエス様のお気持ちを微塵にも思うことなく、そこで見守っている母マリアたちの気持ちをも微塵も思うことなく分捕りものをはぎ取って私腹を肥やす姿は、ウクライナで略奪を極めるロシアの兵隊の姿と重なる思いがいたします。

## [詩編 22]

聖歌隊の指揮者によってあけぼののめじかのしらべにあわせてうたわせたダビデの歌

22:1 わが神、わが神、なにゆえわたしを捨てられるのですか。なにゆえ遠く離れてわたしを助けず、わたしの嘆きの言葉を聞かれないのですか。

22:2 わが神よ、わたしが昼よばわっても、あなたは答えられず、夜よばわっても平安を得ません。

22:3 しかしイスラエルのさんびの上に座しておられる／あなたは聖なるおかたです。

22:4 われらの先祖たちはあなたに信頼しました。彼らが信頼したので、あなたは彼らを助けられました。

22:5 彼らはあなたに呼ばわって救われ、あなたに信頼して恥をうけなかったのです。

22:6 しかし、わたしは虫であって、人ではない。人にそしられ、民に侮られる。

22:7 すべてわたしを見る者は、わたしをあざ笑い、くちびるを突き出し、かしらを振り動かして言う、

22:8 「彼は主に身をゆだねた、主に彼を助けさせよ。主は彼を喜ばれるゆえ、主に彼を救わせ

よ」と。

22:9 しかし、あなたはわたしを生れさせ、母のふところにわたしを安らかに守られた方です。

22:10 わたしは生れた時から、あなたにゆだねられました。母の胎を出てからこのかた、あなたはわたしの神でいらせられました。

22:11 わたしを遠く離れないでください。悩みが近づき、助ける者がいないのです。

22:12 多くの雄牛はわたしを取り巻き、バシヤンの強い雄牛はわたしを囲み、

22:13 かき裂き、ほえたけるししののように、わたしにおかって口を開く。

22:14 わたしは水のように注ぎ出され、わたしの骨はことごとくはずれ、わたしの心臓は、ろうの  
ように、胸のうちで溶けた。

22:15 わたしの力は陶器の破片のようにかわき、わたしの舌はあごにつく。あなたはわたしを  
死のちに伏させられる。

22:16 まことに、犬はわたしをめぐり、悪を行う者の群れがわたしを囲んで、わたしの手と足を  
刺し貫いた。

22:17 わたしは自分の骨をことごとく数えることができる。彼らは目をとめて、わたしを見る。

22:18 彼らは互にわたしの衣服を分け、わたしの着物をくじ引にする。

22:19 しかし主よ、遠く離れないでください。わが力よ、速く来てわたしをお助けください。

22:20 わたしの魂をつるぎから、わたしのいのちを犬の力から助け出してください。

22:21 わたしをししの口から、苦しむわが魂を野牛の角から救い出してください。

22:22 わたしはあなたのみ名を兄弟たちに告げ、会衆の中であなたをほめたたえるでしょう。

22:23 主を恐れる者よ、主をほめたたえよ。ヤコブのもろもろのすえよ、主をあがめよ。イスラエルのもろもろのすえよ、主をおじおそれよ。

22:24 主が苦しむ者の苦しみをかろんじ、いとわれず、またこれにみ顔を隠すことなく、その叫ぶときに聞かれたからである。

22:25 大いなる会衆の中で、わたしのさんびはあなたから出るのです。わたしは主を恐れる者の前で、わたしの誓いを果します。

22:26 貧しい者は食べて飽くことができ、主を尋ね求める者は主をほめたたえるでしょう。どうか、あなたがたの心がとこしえに生きるように。

22:27 地のはての者はみな思い出して、主に帰り、もろもろの国のやからはみな、み前に伏し拝むでしょう。

22:28 国は主のものであって、主はもろもろの国民を統べ治められます。

22:29 地の誇り高ぶる者はみな主を拝み、ちりに下る者も、おのれを生きながらえさせえない者も、みなそのみ前にひざまずくでしょう。

22:30 子々孫々、主に仕え、人々は主のことをきたるべき代まで語り伝え、

22:31 主がなされたその救を／後に生れる民にのべ伝えるでしょう。

果たして聖書の預言は成就されました。

しかし主よ、遠く離れないでください。わが力よ、速く来てわたしをお助けください。

わたしの魂をつるぎから、わたしのいのちを犬の力から助け出してください。

わたしをしの口から、苦しむわが魂を野牛の角から救い出してください。

その言葉はむなしく、イエス様は十字架の上で苦しみ続けます。

衣服は下着もでもはぎとられました。

縫い目のない一続きの服という言葉は、祭司の着る服エポデを思い起こさせます。

出エジプト 28:31 あなたはまた、エポデに属する上服をすべて青地で作らなければならない。

28:32 頭を通す口を、そのまん中に設け、その口の周囲には、よろいのえりのように織物の縁をつけて、ほころびないようにし、

28:33 そのすそには青系、紫系、緋系で、ざくろを作り、そのすその周囲につけ、また周囲に金の鈴をざくろの間々につけなければならない。

イエス様は、まさしく神様と人との間を結び合わせる祭司として、ご自身の身体をいのちを差し出し、人の罪を贖い、父なる神様に至る道となって下さいました。

しかし、この御言葉の成就是、厳しい、苦しい、悲惨な状態のまま終わりを迎えるのではなくて、希望につながっていることが分かるのです。

25 大いなる会衆の中で、わたしのさんびはあなたから出るのです。わたしは主を恐れる者の前で、わたしの誓いを果します。

26 貧しい者は食べて飽くことができ、主を尋ね求める者は主をほめたたえるでしょう。どうか、あ

なたがたの心がとこしえに生きるように。

27 地のはての者はみな思い出して、主に帰り、もろもろの国のやからはみな、み前に伏し拝むでしょう。

28 国は主のものであって、主はもろもろの国民を統べ治められます。

29 地の誇り高ぶる者はみな主を拝み、ちりに下る者も、おのれを生きながらえさせえない者も、みなそのみ前にひざまずくでしょう。

30 子々孫々、主に仕え、人々は主のことをきたるべき代まで語り伝え、

31 主がなされたその救を／後に生れる民にのべ伝えるでしょう。

ここには父なる神様への感謝と賛美があります。そして主がなされる救いが語られています。イザヤ53章にありますが、苦難のしもべは最後に救いを勝ち取り、子々孫々の命を、救いを勝ち取るのです。

イザヤ 53:10 しかも彼を砕くことは主のみ旨であり、主は彼を悩まされた。彼が自分を、とがの供え物となすとき、その子孫を見ることができ、その命をながくすることができる。かつ主のみ旨が彼の手によって栄える。

53:11 彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。義なるわがしもべはその知識によって、多くの人を義とし、また彼らの不義を負う。

53:12 それゆえ、わたしは彼に大いなる者と共に／物を分かち取らせる。彼は強い者と共に獲物を分かち取る。これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、とがある者と共に数えられ

たからである。しかも彼は多くの人の罪を負い、とがある者のためにとりなしをした。

19:25 さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。

母が、その目の前でわが子の傷つきやつれた姿を見、服もすべて引きはがされて、両手足に15センチもの、ボールペンの長さもの太い釘を打たれてはりつけにされる姿を見るという事はどのようなことでしょうか。「母さんは夜なべをして、手袋編んでくれた」との歌がありますが、「かあさんのあかぎれいたい 生みそをすりこむ」自分の手はあかぎれで痛くても、子供の手をあかぎれから守るために手袋を編む、それが母の心ですが、その服も下着もはぎとられて、死に追いやられる姿を目にしなければならぬとは、なんという心が刺し貫かれることでしょうか。これはまさにイエス様をわが手に抱いた預言者シメオンの言葉の成就でした。

2:34 するとシメオンは彼らを祝し、そして母マリヤに言った、「ごらんなさい、この幼な子は、イスラエルの多くの人を倒れさせたり立ちあがらせたりするために、また反対を受けるしるしとして、定められています。――

2:35 そして、あなた自身もつるぎで胸を刺し貫かれるでしょう。――それは多くの人の心にある思いが、現れるようになるためです」。

19:26 イエスは、その母と愛弟子とがそばに立っているのをごらんになって、母にいわれた、「婦



人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です」。

19:27 それからこの弟子に言われた、「ごらんなさい。これはあなたの母です」。そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。

イエス様も、その母の心に報われる言葉を残されました。ご自分が親孝行をすることが出来なかった分、愛弟子ヨハネに託する言葉を残されました。イエス様には下に兄弟がいたわけですが、次の御言葉の出来事のゆえに主はこのように語られたのでしょうか。

マタイ 12:46 イエスがまだ群衆に話しておられるとき、その母と兄弟たちが、イエスに話そうと思って外に立っていた。

12:47 それで、ある人がイエスに言った、「ごらんなさい。あなたの母上と兄弟がたが、あなたに話そうと思って、外に立っておられます」。

12:48 イエスは知らせてくれた者に答えて言われた、「わたしの母とは、だれのことか。わたしの兄弟とは、だれのことか」。

12:49 そして、弟子たちの方に手をさし伸べて言われた、「ごらんなさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。

12:50 天にいますわたしの父のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである」。

次に、「私は渇く」という箇所は旧約聖書にどのように書かれているのでしょうか。

19:28 そののち、イエスは今や万事が終ったことを知って、「わたしは、かわく」と言われた。それは、聖書が全うされるためであった。

19:29 そこに、酔いぶどう酒がいっぱい入れてある器がおいてあったので、人々は、このぶどう酒を含ませた海綿をヒソプの茎に結びつけて、イエスの口もとにさし出した。

### [詩編 69]

聖歌隊の指揮者によってゆりの花のしらべにあわせてうたわせたダビデの歌

69:1 神よ、わたしをお救いください。大水が流れ来て、わたしの首にまで達しました。

69:2 わたしは足がかりもない深い泥の中に沈みました。わたしは深い水に陥り、大水がわたしの上を流れ過ぎました。

69:3 わたしは叫びによって疲れ、わたしののどはかわき、わたしの目は神を待ちわびて衰えましました。

69:4 ゆえなく、わたしを憎む者は／わたしの頭の毛よりも多く、偽ってわたしの敵となり、わたしを滅ぼそうとする者は強いのです。わたしは盗まなかった物をも／償わなければならないのですか。

69:5 神よ、あなたはわたしの愚かなことを／知っておられます。わたしのもろもろのとは／あなたに隠れることはありません。

69:6 万軍の神、主よ、あなたを待ち望む者が／わたしの事によって、はずかしめられることのないようにしてください。イスラエルの神よ、あなたを求める者が／わたしの事によって、恥を負わせられることのないようにしてください。

69:7 わたしはあなたのためにそしりを負い、恥がわたしの顔をおおったのです。

69:8 わたしはわが兄弟には、知らぬ者となり、わが母の子らには、のけ者となりました。

69:9 あなたの家を思う熱心がわたしを食いつくし、あなたをそしる者のそしりが／わたしに及んだからです。

69:10 わたしが断食をもってわたしの魂を悩ませば、かえってそれによってそしりをうけました。

69:11 わたしが荒布を衣とすれば、かえって彼らのことわざとなりました。

69:12 わたしは門に座する者の話題となり、酔いどれの歌となりました。

69:13 しかし主よ、わたしはあなたに祈ります。神よ、恵みの時に、あなたのいつくしみの豊かなるにより、わたしにお答えください。

69:14 あなたのまことの救により、わたしを泥の中に沈まぬよう助け出してください。わたしを憎む者から、また深い水からわたしを助け出してください。

69:15 大水がわたしの上を流れ過ぎることなく、淵がわたしをのむことなく、穴がその口をわたしの上に閉じることのないように／してください。

69:16 主よ、あなたのいつくしみの深きにより、わたしにお答えください。あなたのあわれみの豊かなるにより、わたしを顧みてください。

69:17 あなたの顔をしもべに隠さないでください。わたしは悩んでいるのです。すみやかにわたしにお答えください。

69:18 わたしに近く寄って、わたしをあがない、わが敵のゆえにわたしをお救いください。

69:19 あなたはわたしの受けるそしりと、恥と、はずかしめとを知っておられます。わたしのあだ

は皆あなたの前にあります。

69:20 そしりがわたしの心を砕いたので、わたしは望みを失いました。わたしは同情する者を求めたけれども、ひとりもなく、慰める者を求めたけれども、ひとりも見ませんでした。

69:21 彼らはわたしの食物に毒を入れ、わたしのかわいた時に酢を飲ませました。

69:22 彼らの前の食卓を網とし、彼らが犠牲をささげる祭を、わなとしてください。

69:23 彼らの目を暗くして見えなくし、彼らの腰を常に震わせ、

69:24 あなたの憤りを彼らの上にそそぎ、あなたの激しい怒りを彼らに追いつかせてください。

69:25 彼らの宿営を荒し、ひとりもその天幕に住まわせないでください。

69:26 彼らはあなたが撃たれた者を迫害し、あなたが傷つけられた者をさらに苦しめるからです。

69:27 彼らに、罰に罰を加え、あなたの赦免にあずかせないでください。

69:28 彼らをいのちの書から消し去って、義人のうちに記録されることのないようにしてください。

69:29 しかしわたしは悩み苦しんでいます。神よ、あなたの救が／わたしを高い所に置かれま  
すように。

69:30 わたしは歌をもって神の名をほめたたえ、感謝をもって神をあがめます。

69:31 これは雄牛または角とひずめのある雄牛にまさって／主を喜ばせるでしょう。

69:32 へりくだる者は、これを見て喜べ。神を求める者よ、あなたがたの心を生きかえらせよ。

69:33 主は乏しい者に聞き、その捕われ人をかろしめられないからである。

69:34 天と地は主をほめたたえ、海とその中に動くあらゆるものは主をほめたたえよ。

69:35 神はシオンを救い、ユダの町々を建て直されるからである。そのしもべらはそこに住んでこれを所有し、

69:36 そのしもべらの子孫はこれを継ぎ、み名を愛する者はその中に住むであらう。

酔を飲むという健康法がありますが、酔を薄めずに飲もうものならば、あまりに強くてのどがカラカラになってしまいます。たくさん水を飲んでやっどほっとします。喉が渴いている人に酔を飲ませば、更にのどがカラカラになって、のどをかきむしるほどになります。このように、のどが渴いている人に酔を飲ませたり、食べ物に毒を入れて空腹の人を欺くという、不埒極まる人が登場するのです。

20 そしりがわたしの心を砕いたので、わたしは望みを失いました。わたしは同情する者を求めたけれども、ひとりもなく、慰める者を求めたけれども、ひとりも見ませんでした。

このように、心碎かれ、望みを失い、同情する者も慰める者もおらず、渴ける者に酔を与えるようなものしかない。本当に孤立無援な辛い状況です。

しかし、ここでも、御言葉の結末はこのようになっています。

30 わたしは歌をもって神の名をほめたたえ、感謝をもって神をあがめます。

31 これは雄牛または角とひずめのある雄牛にまさって／主を喜ばせるでしょう。

32 へりくだる者は、これを見て喜べ。神を求める者よ、あなたがたの心を生きかえらせよ。

33 主は乏しい者に聞き、その捕われ人をかろしめられないからである。

34 天と地は主をほめたたえ、海とその中に動くあらゆるものは主をほめたたえよ。

35 神はシオンを救い、ユダの町々を建て直されるからである。そのしもべらはそこに住んでこれを所有し、

36 そのしもべらの子孫はこれを継ぎ、み名を愛する者はその中に住むであろう。

主が味方してくださり、神様はそのような苦難のしもべを通して、ついにシオンを救い、ユダの町を立て直し、しもべらは子々孫々栄え、その町の中に住まう。主の御名を愛する者にはそのような光栄が与えられると締めくくられています。

受難と苦しみはひと時、苦難の御言葉が自分の身に文字通りに成就することは残酷なことに思えるのですが、御言葉の成就是、その結末においては、非常に素晴らしい、救いと祝福に至るという事が示されています。

19:30 すると、イエスはそのぶどう酒を受けて、「すべてが終わった」と言われ、首をたれて息をひきとられた。

19:31 さてユダヤ人たちは、その日が準備の日であったので、安息日に死体を十字架の上に残しておくまいと、(特にその安息日は大事な日であったから)、ピラトに願って、足を折った上で、死体を取りおろすことにした。

19:32 そこで兵卒らがきて、イエスと一緒に十字架につけられた初めの者と、もうひとりの者の足を折った。

19:33 しかし、彼らがイエスのところにきた時、イエスはもう死んでおられたのを見て、その足を折ることはしなかった。

19:34 しかし、ひとりの兵卒がやりでそのわきを突きさすと、すぐ血と水とが流れ出た。

19:35 それを見た者があかしをした。そして、そのあかしは真実である。その人は、自分が真実を語っていることを知っている。それは、あなたがたも信ずるようになるためである。

19:36 これらのことが起ったのは、「その骨はくだかれないであろう」との聖書の言葉が、成就するためである。

出エジプト 12:40 イスラエルの人々がエジプトに住んでいた間は、四百三十年であった。

12:41 四百三十年の終りとなって、ちょうどその日に、主の全軍はエジプトの国を出た。

12:42 これは彼らをエジプトの国から導き出すために主が寝ずの番をされた夜であった。ゆえにこの夜、すべてのイスラエルの人々は代々、主のために寝ずの番をしなければならない。

12:43 主はモーセとアロンとに言われた、「過越の祭の定めは次のとおりである。すなわち、異邦人はだれもこれを食べてはならない。

12:44 しかし、おのおのが金で買ったしもべは、これに割礼を行ってのち、これを食べさせることができる。

12:45 仮住まいの者と、雇人とは、これを食べてはならない。

12:46 ひとつの家でこれを食べなければならない。その肉を少しも家の外に持ち出してはならない。また、その骨を折ってはならない。

12:47 イスラエルの全会衆はこれを守らなければならない。

12:48 寄留の外国人があなたのもとにとどまっていて、主に過越の祭を守ろうとするときは、その男子はみな割礼を受けてのち、近づいてこれを守ることができる。そうすれば彼は国に生れた者のようになるであろう。しかし、無割礼の者はだれもこれを食べてはならない。

12:49 この律法は国に生れたものにも、あなたがたのうちに寄留している外国人にも同一である」。

12:50 イスラエルの人々は、みなこのようにし、主がモーセとアロンに命じられたようにした。

12:51 ちょうどその日に、主はイスラエルの人々を、その軍団に従ってエジプトの国から導き出された。

民数記 9:1 エジプトの国を出た次の年の正月、主はシナイの荒野でモーセに言われた、

9:2 「イスラエルの人々に、過越の祭を定めの時に行わせなさい。

9:3 この月の十四日の夕暮、定めの際に、それを行わなければならない。あなたがたは、そのすべての定めと、そのすべてのおきてにしたがって、それを行わなければならない」。

9:4 そこでモーセがイスラエルの人々に、過越の祭を行わなければならないと言ったので、

9:5 彼らは正月の十四日の夕暮、シナイの荒野で過越の祭を行った。すなわち、イスラエルの人々は、すべて主がモーセに命じられたようにおこなった。

9:6 ところが人の死体に触れて身を汚したために、その日に過越の祭を行うことのできない人々があって、その日モーセとアロンの前にきて、



9:7 その人々は彼に言った、「わたしたちは人の死体に触れて身を汚しましたが、なぜその定め  
の時に、イスラエルの人々と共に、主に供え物をささげることができないのですか」。

9:8 モーセは彼らに言った、「しばらく待て。主があなたがたについて、どう仰せになるかを聞こ  
う」。

9:9 主はモーセに言われた、

9:10 「イスラエルの人々に言いなさい、『あなたがたのうち、また、あなたがたの子孫のうち、死  
体に触れて身を汚した人も、遠い旅路にある人も、なお、過越の祭を主に対して行うことができる  
であろう。

9:11 すなわち、二月の十四日の夕暮、それを行い、種入れぬパンと苦菜を添えて、それを食べ  
なければならない。

9:12 これを少しでも朝まで残しておいてはならない。またその骨は一本でも折ってはならない。  
過越の祭のすべての定めにしたがってこれを行わなければならない。

#### [詩編 34]

ダビデがアビメレクの前で狂ったさまをよそおい、追われて出ていったときの歌

34:1 わたしは常に主をほめまつる。そのさんびはわたしの口に絶えない。

34:2 わが魂は主によって誇る。苦しむ者はこれを聞いて喜ぶであろう。

34:3 わたしと共に主をあがめよ、われらは共にみ名をほめたたえよう。

34:4 わたしが主に求めたとき、主はわたしに答え、すべての恐れからわたしを助け出された。

34:5 主を仰ぎ見て、光を得よ、そうすれば、あなたがたは、恥じて顔を赤くすることはない。

34:6 この苦しむ者が呼ばわったとき、主は聞いて、すべての悩みから救い出された。

34:7 主の使は主を恐れる者のまわりに／陣をしいて彼らを助けられる。

34:8 主の恵みふかきことを味わい知れ、主に寄り頼む人はさいわいである。

34:9 主の聖徒よ、主を恐れよ、主を恐れる者には乏しいことがないからである。

34:10 若きしは乏しくなって飢えることがある。しかし主を求める者は良き物に欠けることはない。

34:11 子らよ、来てわたしに聞け、わたしは主を恐るべきことをあなたがたに教えよう。

34:12 さいわいを見ようとして、いのちを慕い、ながらえることを好む人はだれか。

34:13 あなたの舌をおさえて悪を言わせず、あなたのくちびるをおさえて偽りを言わすな。

34:14 悪を離れて善をおこない、やわらぎを求めて、これを努めよ。

34:15 主の目は正しい人をかえりみ、その耳は彼らの叫びに傾く。

34:16 主のみ顔は悪を行う者にむかい、その記憶を地から断ち滅ぼされる。

34:17 正しい者が助けを叫び求めるとき、主は聞いて、彼らをそのすべての悩みから助け出される。

34:18 主は心の砕けた者に近く、たましいの悔いにくずおれた者を救われる。

34:19 正しい者には災が多い。しかし、主はすべてその中から彼を助け出される。

34:20 主は彼の骨をことごとく守られる。その一つだに折られることはない。

34:21 悪は悪しき者を殺す。正しい者を憎む者は罪に定められる。

34:22 主はそのしもべらの命をあがなわれる。主に寄り頼む者はひとりだに／罪に定められることはない。

最後に、次の御言葉は、旧約聖書の度の個所にかかれていますでしょうか。

19:37 また聖書のほかのところに、「彼らは自分が刺し通した者を見るであろう」とある。

ゼカリヤ 12:10 わたしはダビデの家およびエルサレムの住民に、恵みと祈の霊とを注ぐ。彼らはその刺した者を見る時、ひとり子のために嘆くように彼のために嘆き、ういごのために悲しむように、  
彼のためにいたく悲しむ。

この時代の人、イエス様を十字架につけた人たちは、自分を刺し通した人を、嘆きもせずただ眺めていましたが、ゼカリヤ書にありますように、ひとり子のために嘆くように彼のために嘆き、ういごのために悲しむように、彼のためにいたく悲しみ、十字架の主を仰ぎ、刺し通した人を見る時に、その人は救いを受けるのです。どんなにか父なる神様が伊丹をもって、ご自分の初子を、ひとり子を捧げて下さったのか、どんな思いで母マリアがイエス様の十字架を見上げていたのか、その痛みをもって十字架を見上げ、私がイエス様を刺し通したのだ、死に至らせたのだと思う人は、救いを受けているのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。イエス様が悲しみと孤独の中進まれる時、御

言葉がイエス様の先を進み、これに従いなさいと慰め、導いたことを知り、困難極まる時にも主の離れざる御手の働きを知り、感謝いたします。この「突き通された」イエス様こそ、私の罪とがのためであることを告白いたします。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン